

富士宮市

地域支えあい プロジェクト

プロジェクトだより Vol. ①

超高齢社会

高齢者の困りごとを、どう解決する？

2022年の富士宮市の動き

認知症となりごみの分別が難しい、高齢になり遠方の集積所までごみを運ぶのが難しい、近隣のごみ出しを手伝っているが続けるのが難しい。ごみ出しに関する生活課題にも、様々なものがあります。まずは、どのような課題があるのか、地域住民の方と一緒にワークショップをする事で、課題を整理しました。この中でも、現状の仕組みでカバーが特に難しい「集積所までごみを運ぶのが難しい」という課題に取り組むことになりました。

1 ワークショップ



ごみ出しに課題意識を持つ地域の中から、青木平区を選び、2ヶ月間のモデル事業を行いました。地区の中で、集積所までごみを運ぶのが難しい世帯を対象に、家前に回収ボックスを設置、家から集積所までのごみの運搬を支援することにしました。運搬に協力してくれたのは、市内の就労継続B型事業所の利用者です。対象となった8世帯へのアンケートでは、費用を負担しても、こうした取り組みを利用したいという回答が得られました。

2 青木平区でモデル実施



3 政策提言



11月 第1層協議体委員から富士宮市保健福祉部長・生活環境課長などに提言書が提出されました

地域や各分野の代表者から構成される第1層協議体で、ワークショップやモデル事業を通じて分かったことをもとに議論をし、富士宮市への提言をまとめました。提言書には、互助・共助がスムーズに進むための仕組みづくりや、行政として戸別回収の必要性に関して検討することが記載されています。



自分でできる工夫をする

自助



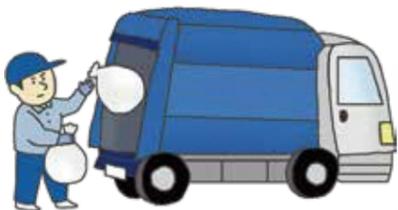
家族・近所の人に手伝ってもらう

互助



介護サービスを利用し支援してもらう

共助



市による戸別回収の仕組みを検討する

公助



富士宮市の人口に占める高齢者の割合は年々増え、3人に1人が高齢者という時代になっています。加齢に伴い、買い物や通院が難しくなったり、集積所までのごみ出しが難しくなったりという生活課題も増えつつあります。
富士宮市では、こうした課題を、自助、互助、共助、公助をうまく組み合わせ、持続可能な形で解決していくための「地域支えあいプロジェクト」(生活支援体制整備事業)を進めています。2022年は、ごみ出しの支援を重点テーマとして、モデル地区での実証実験や政策提言などを行いました。

■ 地域支えあいプロジェクト

地域支えあいプロジェクトは、全国の自治体が進める「生活支援体制整備事業」の富士宮市における愛称です。地域や各分野から選ばれた委員で構成される協議体と、それらの運営をサポートする生活支援コーディネーターが配置されています。

協議体は、市内全域を対象とした第1層協議体と、6つのエリアに分かれた第2層協議体の2種類があります。地域から上がってきた具体的な生活課題や事例は、第2層協議体で協議され、解決策が話し合われます。自治会や地区社協と連携して、解決につながる仕組みづくりを検討します。市内全域の共通課題に対しては、第1層協議体で議論され、必要に応じて、行政への提言や広域的な企業との連携などが検討されます。

第1層協議体

市内全域



第2層協議体

6つの
エリア

大宮西地区・芝川地区

富士根南地区・富士根北地区

大宮中地区・大宮東地区

富丘地区・大富士地区
(富丘・大富士手をつなぎ隊)

上野地区・北山地区

白糸地区・上井出地区

(令和5年3月時点)



Q1

地区社協とはどう違うの？

富士宮市では、地域福祉を推進するために、14のエリアで、地区社協が活動をしています。

「地域の福祉を推進する」という目的は共通していますが、地区社協が予算を持ち、福祉活動を自ら実施していくのに対して、地域支えあいプロジェクトは、課題抽出をして、解決につながるように提言や連携、ニーズと資源のマッチングなどの役割を担います。取り扱うテーマについても、地区社協は、高齢者、障害者、子どもと広く福祉に関わることを扱うのに対して、地域支えあいプロジェクトでは、移動支援やごみ出し支援など特に高齢者に関わる課題を中心に扱います。

Q2

地区の生活課題について、相談がある場合、誰に連絡すればよいの？

それぞれのエリアには、第2層生活支援コーディネーターが配置されています。詳しくは、社会福祉協議会までお問い合わせください。

みなさんの声
ぜひ、お寄せ下さい！



本事業に関する
お問合せ先

富士宮市福祉企画課
0544-22-1591

富士宮市社会福祉協議会
0544-22-0054